

## 第3章

### 多様な教育課題に対応した 【学校選択】として扱う指導計画例

総合的な学習の時間

カリキュラム市民

カリキュラム国際

カリキュラム環境

## (1) 多様な教育課題に対応したカリキュラムモデルの開発

学校教育に対応が求められている多様な教育課題の趣旨やねらいに着目すると、共通性や関連性があることが分かります。例えば、消費者教育、シティズンシップ教育、法教育の趣旨やねらいを挙げると次のようになります。

教育課題	出典	趣旨やねらい
消費者教育	消費者教育の推進に関する法律 (平成24年8月)	消費者の自立を支援するために行われる消費生活に関する教育(消費者が主体的に消費者市民社会の形成に参画することの重要性について理解及び関心を深めるための教育を含む)及びこれに準ずる啓発活動
シティズンシップ教育	経済産業省「シティズンシップ教育と経済社会での人々の活躍についての研究会 報告書」 (平成18年3月)	多様な価値観や文化で構成される社会において、個人が自己を守り、自己実現を図るとともに、よりよい社会の実現に寄与するという目的のために、社会の意思決定や運営の過程において、個人としての権利と義務を行使し、多様な関係者と積極的に関わろうとする資質を養う教育
法教育	法務省「法教育研究会報告書ー我が国における法教育の普及・発展を目指してー」 (平成16年11月)	法律の専門家ではない一般の人々が対象であること、法律の条文や制度を覚える知識型の教育ではなく、法やルールの背景にある価値観や司法制度の機能、意義を考える思考型の教育であること、社会に参加することの重要性を意識付ける社会参加型の教育

こうした教育課題については、下線部の箇所のように、よりよい社会の形成者としての市民的資質の基礎を培うという視点から、主権者として自立しながら個人としての権利や義務を行使し、社会に参画するために必要な資質や能力を育成するといった共通性や関連性があります。また、扱う指導内容も、社会的自立、国民の権利や義務、市民生活、消費生活、社会生活のきまり、というように共通性や関連性があるため、一つのまとまりをもったものとして捉えることができると考えました。

そこで、各教育課題における「児童・生徒に育てたい資質・能力」と「指導内容」の共通性や関連性の視点から分析・整理して、総合的な学習の時間のカリキュラムモデルー「カリキュラム市民」、「カリキュラム国際」、「カリキュラム環境」ーを開発しました。

また、本章で示す各カリキュラムモデルの年間指導計画例にあるように、多様な教育課題について、〈主題〉を設定して【学校必修】として各教科等で、【学校選択】として総合的な学習の時間で扱い、実践することで、次のような利点があると考えました。

**【焦点化】**…〈主題〉に基づいて、多様な教育課題を各教科等の指導の中で行うことで、どの教科等でどのような教育課題を扱っているのかについて明確になり、指導の焦点化を図ることができる。

**【特色化】**…「カリキュラム市民」、「カリキュラム国際」、「カリキュラム環境」のそれぞれのねらいを参考に、各学校が、地域の特色や児童・生徒の実態に合った総合的な学習の時間のカリキュラムモデルを選択することで、教育課程の編成・実施の特色化を図ることができる。

## ◆「カリキュラム市民」

### 【教育課題の主なねらい】

#### キャリア教育

児童・生徒の一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な能力や態度を育成し、それらの育成を通じた勤労観・職業観の形成・確立

#### シティズンシップ教育

社会の一員として自立し、権利と義務の行使により、社会に積極的に関わろうとする態度の育成

#### 主権者教育

主権者としての自覚と社会参画の力の育成

#### 法教育

「法の担い手」として、法や司法制度、これらの基礎となっている価値を理解し、法的なものの考え方の育成

#### 消費者教育

自らの消費生活の安定・向上を目指し、持続可能な社会の形成に参加できる能力の育成

#### 金融教育（金銭教育）

健全な金銭感覚に加えて金融に関する基本的な知識及び適切な考え方を身に付け、日常生活において主体的に判断し行動できる国民の育成

#### 租税教育

納税者として社会や国の在り方を主体的に考える国民の育成

#### 福祉教育

他の人と協力しながら、積極的に全人類の福祉社会の構築に寄与する態度の育成

#### 住教育

住生活や住環境をより豊かに作りあげる、賢い居住者（消費者）の育成

等



### 【カリキュラムのねらい】

- 市民・消費者の権利と役割について理解し、市民としての消費行動やキャリア形成ができる能力を育成する。
- 主権者として権利の享受や責任・義務の履行、公的な事柄への関心や関与をもち、社会参加に必要な知識・技能、態度を育成する。
- 自分の行動と社会経済との関連を意識し、よりよい社会の実現に寄与しようとする態度を育成する。

## ◆「カリキュラム国際」

### 【教育課題の主なねらい】

#### 国際教育

国際社会に生きる日本人としての自覚の育成

#### 日本の伝統・文化理解教育

国際社会に生きる日本人としての自覚と誇り及び多様な文化を尊重できる資質・態度の育成

#### 領土に関する教育

主権国家確立に向けての国民の意識の醸成

等



### 【カリキュラムのねらい】

- 異文化と共生できる資質・能力を育成する。
- 自己を確立する能力を育成する。
- コミュニケーション能力を育成する。

## ◆「カリキュラム環境」

### 【教育課題の主なねらい】

#### 環境教育

環境に対する課題意識をもち、その保全に貢献できる国民の育成

#### 持続可能な開発のための教育（ESD）

持続可能な社会づくりの担い手を育む教育

#### 森林環境教育

森林と人が共生する社会の実現に向けた資質や能力の育成

#### 再生可能エネルギー教育

再生可能エネルギーへの関心を高め、その活用に貢献できる国民の育成

#### 海洋教育

海洋環境の保全を図りつつ国際的な理解に立った平和的かつ持続可能な海洋の開発と利用を可能にする知識、技能、思考力、判断力、表現力を有する人材の育成

等



### 【カリキュラムのねらい】

- 環境保全に対する関心・意欲・態度を育成する。
- 持続可能な社会を築くために必要な知識・理解を深める。
- 自然環境を育み、これを維持管理することの重要性に関わる知識・理解を深める。
- 環境に働き掛ける実践力を育成する。

【多様な教育課題を分析・整理した  
総合的な学習の時間のカリキュラムモデルの開発】

児童・生徒に育てたい 資質・能力 題材とする 主な教育課題	自主・ 自律	人間 関係	社会 参画	未来の 創造
キャリア教育	○	○	○	
シティズンシップ教育	○	○	○	○
主権者教育	○		○	○
法教育	○		○	
租税教育	○		○	○
福祉教育	○		○	○
消費者教育	○	○	○	○
金融教育(金銭教育)	○		○	
住教育	○		○	○
国際教育	○	○	○	
日本の伝統・文化理解教育		○	○	
領土に関する教育		○	○	○
環境教育	○	○	○	○
持続可能な開発の ための教育(ESD)	○	○	○	○
森林環境教育	○		○	○
再生可能エネルギー教育	○		○	○
海洋教育	○		○	○

**カリキュラム市民**

ねらい

- 市民・消費者の権利と役割について理解し、市民としての消費行動やキャリア形成ができる能力を育成する。
- 主権者として権利の享受や責任・義務の履行、公的な事柄への関心や関与をもち、社会参加に必要な知識・技能、態度を育成する。
- 自分の行動と社会経済との関連を意識し、よりよい社会の実現に寄与しようとする態度を育成する。

**カリキュラム国際**

ねらい

- 異文化と共生できる資質・能力を育成する。
- 自己を確立する能力を育成する。
- コミュニケーション能力を育成する。

**カリキュラム環境**

ねらい

- 環境保全に対する関心・意欲・態度を育成する。
- 持続可能な社会を築くために必要な知識・理解を深める。
- 自然環境を育み、これを維持管理することの重要性に関わる知識・理解を深める。
- 環境に働き掛ける実践力を育成する。

※ 上記の表にある○印は、その教育課題で重点となる児童・生徒に「育てたい資質・能力」の例を示している。

なお、単元の指導内容によっては、重点となる児童・生徒に「育てたい資質・能力」が変わることもあり得る。

なお、次のような教育課題については、必要に応じてそれぞれのカリキュラムモデルの中で、単元の指導内容と関連させて扱うことにしました。

- 安全教育    ○防災教育    ○健康教育    ○食育  
○メディアリテラシー教育    ○情報モラル教育    ○ICT教育 等

## (2) カリキュラムモデルにおける児童・生徒に「育てたい資質・能力」の設定

社会的な要請から生まれた多様な教育課題への対応として、児童・生徒に、これからの社会の中でたくましく生き抜く力の基盤となる資質・能力を育成することが求められています。

例えば、消費者教育では、「消費者が主体的に消費者市民社会の形成に参加することの理解・関心・行動」といった資質・能力を、国際教育では、「地球的視野に立って、主体的に行動するために必要と考えられる態度・能力」といった資質・能力を育成することが、その趣旨やねらいから確認することができます。

そこで、総合的な学習の時間のカリキュラムモデルー「カリキュラム市民」、「カリキュラム国際」、「カリキュラム環境」ーの開発に当たっては、児童・生徒に「育てたい資質・能力」について、各教育課題の趣旨やねらいと学習指導要領に示された各教科等の内容との関連を図りながら分析して具体化しました。

例えば、消費者教育、国際教育の指導では、次のような資質・能力を児童・生徒に育成することができます。

教育課題	教育課題の指導で児童・生徒に育成される資質・能力
消費者教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費をめぐる物や金銭の流れ、消費行動が環境や経済に与える影響を考える力</li> <li>・消費者問題や社会問題に関心をもち、公正・公平な社会の形成について考える力</li> <li>・消費をめぐるトラブルを解決するための法律や制度、相談機関を知る力</li> <li>・購入する物の選択の方法、購入の方法やよりよい契約の方法を考える力</li> <li>・買い物や貯蓄を計画的に行う態度</li> <li>・消費についての情報を収集し、発信する力</li> <li>・消費者生活の情報を評価し、選択し、意思決定する力 等</li> </ul>
国際教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に行動するために必要と考えられる態度・能力の基礎</li> <li>・国際社会の理解</li> <li>・地球的視野に立った見方や考え方</li> <li>・主体的に行動できる力 等</li> </ul>

このように、多様な教育課題それぞれについて、指導の中で児童・生徒に育成される資質・能力を具体化し、共通性や関連性があるものを整理・統合して、次のような「12の資質・能力」を導き出しました。

- 学びに向かう力
- 問題発見・解決力
- 生活をよりよくする力
- 対人関係力
- 人間関係形成力
- グローバル化に対応する力
- 規範意識
- 他者と協働する力
- 主体的に計画・行動する力
- 生命を大切にする力
- 新たな価値を創造する力
- 持続可能な社会の実現に向けた実践力

さらに、それらの資質・能力を「4つの要素」にまとめて、「自主・自律」、「人間関係」、「社会参画」、「未来の創造」としました。

次の表は、多様な教育課題に対応した総合的な学習の時間のカリキュラムモデルー「カリキュラム市民」、「カリキュラム国際」、「カリキュラム環境」ーにおいて、児童・生徒に「育てたい資質・能力」として設定した「4つの要素」と「12の資質・能力」との関連を示したものです。

本カリキュラムモデルでは、「カリキュラム市民」、「カリキュラム国際」、「カリキュラム環境」のいずれのカリキュラムでも、「4つの要素」である「自主・自律」、「人間関係」、「社会参画」、「未来の創造」に関する資質・能力を育成することを目標に設定しています。

「カリキュラム市民・国際・環境」において児童・生徒に「育てたい資質・能力」		
要素	12の資質・能力	具体的な児童・生徒の姿
自主・自律	学びに向かう力	学習に対する目標をもち、意欲をもって取り組む。
	問題発見・解決力	自らが関わる事象から問題を発見し、生じた問題を解決していく。
	生活をよりよくする力	自分の生活を見つめ、工夫したり改善したりしながら、生活の向上を図る。
人間関係	対人関係力	相手のことを考えた言葉遣いや態度をとる。
	人間関係形成力	望ましい人間関係を築くために、他者を理解し、他者の考えや立場を理解して行動する。
	他者と協働する力	目標を共有し、他者の立場を尊重して、力を合わせて活動する。
社会参画	規範意識	社会のルールの大切さを理解し、守る。
	主体的に計画・行動する力	社会の一員であることを自覚し、主体的に計画、行動する。
	グローバル化に対応する力	地球規模で考えることができるように、日本や世界のことに関心をもち、考える。
未来の創造	生命を大切にする力	生命の尊厳に気付き、命あるものを尊重する。
	新たな価値を創造する力	豊かな感性の下、多様な価値観を受け入れて融合させ、新たな価値を創造する。
	持続可能な社会の実現に向けた実践力	自らの課題から未来を見つめ、課題の解決につながる新たな価値観をもって行動する。

資質・能力	自主・自律		
	学びに向かう力	問題発見・解決力	生活をよりよくする力
児童・生徒の姿	学習に対する目標をもち、意欲をもって取り組む	自らが関わる事象から問題を発見し、生じた問題を解決していく	自分の生活を見つめ、工夫したり改善したりしながら、生活の向上を図る
小学1・2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>めあてに向けて意欲をもって取り組むこと</li> <li>めあてに向けて集中して最後まで取り組むこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べてみたいことなどを見付けること</li> <li>課題の解決に向けて、課題を解決するための方法を考え、実行すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣を身に付け、自分の生活の改善方法を見だし、実践すること</li> </ul>
小学3・4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>めあてに向けて自分で考えて取り組むこと</li> <li>めあてに向けて集中して最後まで取り組むこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>提示された課題を基に、自分の課題を見付けること</li> <li>課題を解決するための方法を考え、実行すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣を身に付け、自分の生活の改善方法を見だし、実践すること</li> </ul>
小学5・6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分でめあてを決めて、見通しをもって取り組むこと</li> <li>集中力や持続力を発揮して取り組むこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題を見付けること</li> <li>課題を解決するための方法と手順を考え、これまでの経験を踏まえて実行すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分を見つめ直し、よりよい生き方について考え、実践すること</li> </ul>
中学1～3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分でめあてを決めて、計画的に最後まで取り組むこと</li> <li>集中力や持続力を発揮して取り組むこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活や社会状況から課題を見付けること</li> <li>課題を解決するための方法と手順を考え、これまでの経験や様々な情報を基に実行すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>望ましい生き方について考え、適切な行為を選択し、実践すること</li> </ul>

資質・能力	人間関係		
	対人関係力	人間関係形成力	他者と協働する力
児童・生徒の姿	相手のことを考えた言葉遣いや態度をとる	望ましい人間関係を築くために、他者を理解し、他者の考えや立場を理解して行動する	目標を共有し、他者の立場を尊重して、力を合わせて活動する
小学1・2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>気持ちのよい挨拶ができること</li> <li>言葉遣い、動作などに心掛けて、他者と接すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者の話をよく聞き、自分の意見を伝え、話し合うこと</li> <li>他者のよさを見付けること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標に向けて、他者と仲よく助け合って活動すること</li> </ul>
小学3・4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手の気持ちに応じて、真心をもって礼儀正しい言動で接すること</li> <li>相手がどう考えるかを意識して行動すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いのよさを見付け、違いを認め、話し合うこと</li> <li>他者の気持ちを考えて行動すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標に向けて、他者を尊重し、協力し合って活動すること</li> </ul>
小学5・6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手の立場に立ち、時と場をわきまえた礼儀正しい言動を行うこと</li> <li>相手の気持ちを共感的に受け止めて行動すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いのよさを発見し、違いを認め、話し合うこと</li> <li>他者とのことを考えて行動し、互いに認め合うこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標に向けて、多様な他者の考えや立場を理解して、他者と協力して行動すること</li> </ul>
中学1～3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>時と場に応じた適切な言動を行うこと</li> <li>相手の痛みや感情を共感的に受け止めて行動すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者との違いから互いのよさを発見し、話し合うこと</li> <li>他者のことを考えて行動し、互いに認め合うこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標に向けて、多様な他者の考えや立場を理解して、進んで他者と協力して行動すること</li> </ul>



資質・能力	社会参画		
	規範意識	主体的に計画・行動する力	グローバル化に対応する力
児童・生徒の姿	社会のルールの大切さを理解し、守る	社会の一員であることを自覚し、主体的に計画、行動する	地球規模で考えることができるように、日本や世界のことに関心をもち、考える
小学1・2年	・ 集団の約束やきまりを守ること	・ 集団の一員として自分のことを考え、活動すること	・ 身近な人々と触れ合うことで、郷土への親しみをもつこと ・ 郷土の自然や文化に触れ、郷土への愛着をもって行動すること
小学3・4年	・ 規範意識をもって法やきまりを守ること ・ 集団の約束や社会のきまりを守り、公德心をもつこと	・ 集団や地域の一員として自分のことを考え、活動すること	・ 我が国の伝統と文化に関心をもち、現在の自分との関わりを理解すること ・ 他国の人々や生活、文化に慣れ親しんで行動すること
小学5・6年	・ 規範意識をもって法やきまりを守ること	・ 集団や地域の一員として自分に求められている役割を自覚し、自分でできることを考え、活動すること	・ 我が国の伝統と文化を大切に思い、継承し発展させるために努力しようとする気持ちをもつこと ・ 他国の文化を尊重する態度をもって、考えを深めたり交流したりすること
中学1～3年	・ 法やきまりの意義を理解し、遵守すること	・ 社会の一員として自分に求められている役割を自覚し、社会の発展に貢献するために活動すること	・ 日本人としての自覚をもって我が国の伝統や文化などのよさについて理解を深めること ・ 国際的視野に立って、世界の中の日本人としての自覚をもって行動すること

資質・能力	未来の創造		
	生命を大切にできる力	新たな価値を創造する力	持続可能な社会の実現に向けた実践力
児童・生徒の姿	生命の尊厳に気付き、命あるものを尊重する	豊かな感性の下、多様な価値観を受け入れて融合させ、新たな価値を創造する	自らの課題から未来を見つめ、課題の解決につながる新たな価値観をもって行動する
小学1・2年	・ 生命を大切にできる心をもつこと ・ 身近な自然に親しみをもち、動植物に優しい気持ちで接すること	・ 興味をもって新しいものをつくり出す活動をする	・ 様々な体験を通して得た気持ちの変化を、生活の中に生かすこと
小学3・4年	・ 生命の尊厳を感じ取り、命あるものを大切にすること ・ 自然の素晴らしさや不思議さに感動し、自然や動植物を大切にすること	・ 興味や関心をもって、習得した知識を生かしながら新しいものをつくり出す活動をする	・ 身近な生活体験や自然体験を通して、自分の考えをもち課題解決に向けて行動すること
小学5・6年	・ 生命のかけがえのなさに気付き、生命あるものを慈しみ、畏れ、敬い、尊び、環境保全に寄与すること	・ 興味や関心、意欲をもって、習得した知識や技能を生かしながら、他と協働した新たなものを見いだす活動をする	・ 身近な地域や社会で起きている問題に対して自分の考えをもち、自分なりに何ができるかを考え、実践すること
中学1～3年	・ 生命の尊厳を理解し、かけがえのない自他を含め、生命ある全てのものを尊重し、環境保全に寄与すること	・ 興味や関心、意欲をもって、独創的で知的な活動を行い、新たな価値を見いだすこと	・ 身近な地域や社会で起きている問題を自分の生活と関連付けて捉え、自分に何ができるかを考え、実践すること

### (3) 単元の指導計画における学習活動及び学習過程の設定

「カリキュラム市民」、「カリキュラム国際」、「カリキュラム環境」の単元の指導計画を構想する際に、児童・生徒に「育てたい資質・能力ー4つの要素と12の資質・能力ー」を育成するための学習活動及び学習過程を設定しました。

#### 【①資質・能力を育成するための学習活動】

「育てたい資質・能力」を育成することを意図して、「問いをもつ」、「調べる」、「話し合う」、「実践する」、「発信する」、「振り返る」の6つの「学習活動群」を設定しました。

##### 【問いをもつ】

課題・目標・計画を立てる 見付ける 予想する 設定する 課題を把握する 等

##### 【調べる】

測定する 収集する 選択する 調査する 分類する 分析する 比較する  
整理する 取材する 見学する 意見・要望を聞く 調べたことをまとめる 等

##### 【話し合う】

話し合う 分担を決める 検討する 共有する 合意する 主張する 相談する  
討論する 助言する 折り合いを付ける 考えを相手に伝える 相手の話を聞く  
練り上げる 等

##### 【実践する】

解決する 修正する 活動する 体験する 視聴する 交流する 等

##### 【発信する】

考えを書く 報告する 発表する 説明する 伝える 紹介する 等

##### 【振り返る】

気付く 改善する 自覚する 高める 確かにする 自己評価する 修正する  
他者評価する 等

## 【②学習過程】

学習過程は、児童・生徒の課題追究の過程であり、思考の展開の過程に対応しているため一様ではありません。本カリキュラムモデルにおける、総合的な学習の時間の学習過程は、【課題の設定】→【情報の収集】→【整理・分析】→【まとめ、表現】という探究的な学習過程を基本にしています。

また、この学習過程に、児童・生徒に「育てたい資質・能力」を育成することをねらいとした学習活動を位置付けるために、次のような3つの代表的な学習過程を構築しました。

### ◆自己の意思決定・意思表示ができるようになることをねらいとした過程

①【問いをもつ】→ ②【調べる】→ ③【実践する】【発信する】→ ④【振り返る】

① いくつかの解決方法から、最後に自分で選択ができるような課題を設定する。

② 意思決定のために必要となる確かな情報を調べる。

③ 自分でできることを考えさせ、調べたことを伝えたり実践したりする。

④ 自分ならどのように考えるか、どのようにするか考えた上で意思決定し、それを表現する。

### ◆集団における合意形成ができるようになることをねらいとした過程

①【問いをもつ】 → ②【調べる】 → ③【話し合う】

① 議論の分かれる問題や、学級の取組や地域との関わり方を決めるなどの課題を設定する。

② 合意形成のために、様々な立場の人へインタビュー活動をしたり、資料を活用して調べたりする。協働的なグループ調査を行う。

③ 集団の中で、それぞれの考えを表現した上で、話し合い、合意形成する。

### ◆自分の身近な社会の未来と直結したことを具体的に考え、実践できるようになることをねらいとした過程

①【問いをもつ】→ ②【調べる】→ ③【振り返る】→ ④【実践する】【発信する】

① 地域の様子やその未来像等から、課題を設定する。

② 課題の特色（どのような）、原因（なぜ）、過程（どのように）、比較（違いは）などを追究することで、課題の背景を考える視点を複数もてるようにする。

③ 情報の組み合わせから考えられること、自分が選択したいことなどを振り返る。

④ 課題解決として、自分が実践したり、家庭や地域に発信したりする。

### 【③「育てたい資質・能力」の育成を図る単元の指導計画の作成手順】

本カリキュラムモデルは、これからの社会の中でたくましく生き抜く力の基盤となる資質・能力「4つの要素」と「12の資質・能力」を育成することを一つの特長としています。

ここでは、「カリキュラム環境」の第4学年「ごみの減量化プロジェクトをしよう」を例に、「育てたい資質・能力」の育成を図る単元の指導計画の作成手順を示します。

#### 【手順1】資質・能力の設定

- ア 単元の目標を分析して、36・37頁に示した児童・生徒に「育てたい資質・能力」を設定します。
- イ 設定した「育てたい資質・能力」の趣旨を踏まえ、単元の教材や指導内容と関連させて、単元で児童・生徒に「育てたい資質・能力」の具体の評価規準を設定します。

#### 第4学年「ごみの減量化プロジェクトをしよう」(環境)

【「育てたい資質・能力」の趣旨】 【単元で育てたい資質・能力の評価規準】

##### 「主体的に計画・行動する力」

・集団や地域の一員として自分のことを考え、活動すること

・ごみに関する環境問題について調べたことから、地域の一員として、ごみの減量化のために自分にできる取組を考え、継続してできるように計画して取り組む。

##### 「持続可能な社会の実現に向けた実践力」

・身近な生活体験や自然体験を通して、自分の考えをもち課題解決に向けて行動すること

・自分で決めたごみの減量化に向けた取組の報告を行い、環境の保全に向けた活動を実践する。

#### 【手順2】学習過程の設定

- ア 児童・生徒に「育てたい資質・能力」を育成するための「学習過程」を決定します。
- イ 例えば、児童・生徒が未来に向けて自分の在り方を具体的に考え、実践できるようになることをねらいとした単元の場合は、「自分の身近な社会の未来と直結したことを具体的に考え、実践できるようになることをねらいとした過程」を選択します。

#### 【学習過程】

#### 【学習活動】

##### ①【問いをもつ】

課題を把握する

学習計画を立てる

##### ②【調べる】

見学する

調査する

取材する

結果を分析・整理する

調べたことをまとめる

##### ③【振り返る】

気付く

自覚する

##### ④【実践する】 【発信する】

交流する

発表する

考えを書く

#### 【手順3】学習活動の設定

- ア 「学習過程」にモデルとして位置付けられている「学習活動」を参考にして、児童・生徒に「育てたい資質・能力」を育成するための具体的な「学習活動」を設定します。
- イ 例えば、【問いをもつ】については、「課題を把握する」、「学習計画を立てる」といった活動を設定します。

## 【④単元の指導計画例】

### 第4学年「ごみの減量化プロジェクトをしよう」(14 時間扱い)

時間	主な学習活動・内容	育てたい資質・能力 ◇自主・自立 ◆人間関係 □社会参画 ■未来の創造 ★評価	指導上の留意点
1次 (3)	問 い を も つ  【ごみの埋め立て地の課題を調べる】 ○社会科でごみの処理について学習したことを振り返り、興味・関心のあることを話し合う。(1) ・ごみの廃棄量 ・ごみの廃棄の影響 ・ごみを減量化する工夫や努力 等 ○東京湾の埋め立て地の状況を調べる。(1) ・埋め立て地の広がり ・廃棄物処理の限界 ○ごみの減量化のために、自分が取り組む課題を決め、調べる。(1) ・ごみを減量化する取組	◇問題発見・解決力 ★ごみの廃棄に関する状況から、ごみの減量化に向けての自分の課題を見付けている。	・社会科のごみ処理についての学習のまとめに書いた学習感想を提示して興味・関心がもてるようにする。 ・埋め立て地の状況が分かるDVDを視聴して問題意識を高めるようにする。
2次 (5)	調 べ る  【ごみの減量化に向けた取組を調べる】 ○ごみを減量化するための家庭、行政、企業の取組について調べる計画を立てる。(2) ○ごみを減量化するための家庭、行政、企業の取組について調べる。(3) ・家庭…ごみの分別の実行 リデュース、リユース、リサイクルといった取組 ・行政…資源回収作業、回収ステーションの設置、啓発活動 ・企業…包装の縮減、回収ステーションの設置、エコポイントの発行	◇問題発見・解決力 ★ごみを減量化する取組について取材や調査をして追究している。 ◆人間関係形成力 ★友達の考えのよさを認め協力しながら、追究した内容を共有している。	・同じ課題に取り組んでいる児童でグループをつくり、計画を立てるようにする。 ・実際に家庭、行政、企業がどのような取組をしているか取材ができるように、あらかじめ連携を取るようにする。
3次 (6)	振 り 返 る  実 践 す る  発 信 す る  【ごみの減量化に向けたプロジェクトをする】 ○ごみを減量化するためのプロジェクトの活動計画を立てる。(1) ○ごみを減量化するためのプロジェクトに取り組む。(3) ・リデュース、リユース、リサイクルを家庭に呼びかけるポスターを作る。 ・地域に古紙回収を呼び掛けるポスターを作る。 ・買い物にはマイバックを持参するように保護者に手紙を書く。 ・家庭にゴミの分別を呼び掛ける。 等 【ごみの減量化プロジェクト発表会をする】 ○実際に取り組んだ活動を全校児童に向けて発表する準備をする。(1) ・家庭や地域でできる減量化の取組 等 ※全校朝会や児童集会において発表をする。 ○地域の一員として取組への意見文を書く。(1)	□主体的に計画・行動する力 ★地域の一員として、ごみの減量化に向けて自分にできることを考え、取り組んでいる。  ■持続可能な社会の実現に向けた実践力 ★自分が決めたごみの減量化の取組を実践しようとしている。	・家庭や地域でもごみの減量化に協力してもらうための取組を進めるために、PTAや地域の自治会と連携を取るようにする。 ・全校朝会や児童集会で呼び掛けたり、ポスターなどを掲示したりして、全校児童に伝えるように助言する。 ・発表会では、伝える相手を意識して発表内容や方法を考えるように助言する。

本章の44頁からは、開発した総合的な学習の時間のカリキュラムモデルー「カリキュラム市民」、「カリキュラム国際」、「カリキュラム環境」ーの年間指導計画例と単元の指導計画例を掲載しています。

★「カリキュラム市民」、「カリキュラム国際」、「カリキュラム環境」ごとに、〈主題〉を踏まえて、多様な教育課題を、どの学年で、どの時期に、どの教科等で扱うかについて示しています。

		「カリキュラム国際」					
		題材とする主な教育課題 ●国際教育 ●日本の伝統・文化理解教育 ●領土に関する教育 など					
学年	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
小 学 校	3						
	4						
	5	<b>〈日本の世界遺産〉</b> ●国際教育 ●環境教育 〔説明〕○国語「古文」(3) ○音楽「音楽の歴史をたどる音楽の歴史」(6) ○図工「私の国産品」(4) ○道徳「環境・環境 環境 国産品」(3) ○外国語活動「世界の様々な産業や物産」等 (4)					
	6	<b>〔説明〕★総合「日本の世界遺産を調べよう」(4)</b>					
中 学 校	1	<b>〈外国の人々との交流〉</b> ●国際教育 ●日本の伝統・文化理解教育 ●ICT教育 〔説明〕○国語「外国の生活文化」(10) ○社会「世界の生活文化」(7) ○数学「文化の発展」(1) ○芸術「世界の生活文化」(6) ○音楽「世界の生活文化の発展」(4) ○道徳「世界の生活文化」(6) ○技術・家庭「世界の生活文化」(4) ○道徳「世界の生活文化」(1)					
	2	<b>〔説明〕★総合「世界の仲間と共に生きる町を創ろう」(20)</b>					
	3	<b>〈伝統的な文化の価値を伝える〉</b> ●日本の伝統・文化理解教育 ●国際教育 ●ICT教育 〔説明〕○国語「日本の生活文化」(10) ○社会「日本の生活文化」(10) ○数学「日本の生活文化」(2) ○芸術「日本の生活文化」(6) ○音楽「日本の生活文化の発展」(4) ○道徳「日本の生活文化」(6) ○道徳「日本の生活文化」(1)					
		<b>〔説明〕★総合「日本の伝統文化の価値を伝えよう」(20)</b>					

★単元名とその単元の配当授業時数を示しています。

★本単元で、児童・生徒に「育てたい資質・能力」を示しています。

★本単元で扱う主な教育課題の趣旨やねらいを学習内容と関連付けて具体的に示しています。

小学校
自主・自律
人間関係
社会参画

**第4学年 総合的な学習の時間**

**「世界の国々の生活・文化ガイドブックを作ろう」(14時間)**

**1 単元の目標**

① 世界の国々の生活や文化を紹介するガイドブックの作成を通して、外国の人々の生活や文化に慣れ親しむとともに、国際社会に生きる日本人としての自覚や誇りを高める。

② ガイドブックを作成するという目標に向けて、調べ学習を通して、他者を尊重し協力し合って活動することができる。

**2 単元で育てたい資質・能力**

<p style="text-align: center;">◇自主・自律</p> <p style="text-align: center;">「問題発見・解決力」</p> <p>提示された課題を基に、自分の課題を見付け、自分の課題を解決するための方法を考え、実行すること</p> <p>・海外で生活経験がある人の話を聞いて、外国の生活や文化に興味・関心をもつとともに、世界の国々の生活や文化について調べ、ガイドブックにまとめる。</p>	<p style="text-align: center;">◆人間関係</p> <p style="text-align: center;">「他者と協働する力」</p> <p>「目標に向けて、他者を尊重し、協力し合って活動すること</p> <p>・ガイドブックの完成を目指して、互いに協力し合って情報を集めたり、話し合ったりしながら活動を進めるとともに、完成したガイドブックのよさを互いに認め合う。</p>	<p style="text-align: center;">□社会参画</p> <p style="text-align: center;">「グローバル化に対応する力」</p> <p>・我が国の伝統と文化に関心を持ち、現在の自分との関わりを理解すること</p> <p>・他国の人々の生活、文化に慣れ親しんで行動すること</p> <p>・世界の国々の生活や文化の様子を調べ、ガイドブックにまとめる学習活動を通して、日本の生活や文化との違いについて考え、我が国の伝統文化への関心を高める。</p>
--	---	--

**3 単元で扱う主な教育課題との関連**

国際教育	世界の国々の生活や文化についてのガイドブックを作成することで、多様な人々の生活や文化、習慣、価値観についての認識や理解を深め、それぞれの国の生活や文化について尊重する態度を養う。
日本の伝統・文化理解教育	ガイドブックを作成したり、互いに見合ったりすることで、世界の国々の生活や文化と自国の生活や文化との関わりについて理解を深める。
ICT教育	世界の国々の生活や文化を理解し、日本との違いを考えることで、それらを育ててきた地域や日本を誇りに思う気持ちを育てる。
	・コンピュータのネットワーク機能等を使って、世界の国々の生活や文化についての情報を集めることで、ICT機器を適切に活用する資質や能力を育てる。

各学校においては、多様な教育課題に対応した教育課程の編成・実施に当たって、学校の特色化を図るために、【学校選択】として総合的な学習の時間の年間指導計画や単元の指導計画を作成する際に、本カリキュラムモデルを参考にしてください。

「カリキュラム国際」のねらい						
<ul style="list-style-type: none"> <li>○異文化と共生できる資質・能力を育成する。</li> <li>○自己を確立する能力を育成する。</li> <li>○コミュニケーション能力を育成する。</li> </ul>						
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
<b>【日本文化の伝承】</b> ●日本の伝統・文化理解教育 ●メディアリテラシー教育 ●ICT教育 【説明】○国語「言語調の短歌や俳句」(1)『説明や報告の発表』(3) ○音楽「和楽器の演奏を含めた我が国の音楽」(5) ○芸術「和楽器の演奏を含めた我が国の音楽」(5) <b>【選択】★総合「地域の伝統的な文化を調べよう」(10)</b>						
<b>【世界の文化と食生活】</b> ●国際教育 ●日本の伝統・文化理解教育 ●メディアリテラシー教育 ●ICT教育 【説明】○国語「食文化」(1) ○社会「食生活の歴史」(2) ○音楽「地域の食文化を表現した我が国の音楽」(7) ○道徳「国際理解・国際観望」(1) <b>【選択】★総合「世界の食文化を調べよう」(10)</b>						
<b>【世界の文化と食生活】</b> ●国際教育 ●日本の伝統・文化理解教育 ●メディアリテラシー教育 ●ICT教育 【説明】○国語「食文化」(1) ○社会「食生活の歴史」(2) ○音楽「地域の食文化を表現した我が国の音楽」(7) ○道徳「国際理解・国際観望」(1) <b>【選択】★総合「世界の食文化を調べよう」(10)</b>						
<b>【世界の文化と食生活】</b> ●国際教育 ●日本の伝統・文化理解教育 ●メディアリテラシー教育 ●ICT教育 【説明】○国語「食文化」(1) ○社会「食生活の歴史」(2) ○音楽「地域の食文化を表現した我が国の音楽」(7) ○道徳「国際理解・国際観望」(1) <b>【選択】★総合「世界の食文化を調べよう」(10)</b>						
<b>【世界の文化と食生活】</b> ●国際教育 ●日本の伝統・文化理解教育 ●メディアリテラシー教育 ●ICT教育 【説明】○国語「食文化」(1) ○社会「食生活の歴史」(2) ○音楽「地域の食文化を表現した我が国の音楽」(7) ○道徳「国際理解・国際観望」(1) <b>【選択】★総合「世界の食文化を調べよう」(10)</b>						
<b>【世界の文化と食生活】</b> ●国際教育 ●日本の伝統・文化理解教育 ●メディアリテラシー教育 ●ICT教育 【説明】○国語「食文化」(1) ○社会「食生活の歴史」(2) ○音楽「地域の食文化を表現した我が国の音楽」(7) ○道徳「国際理解・国際観望」(1) <b>【選択】★総合「世界の食文化を調べよう」(10)</b>						
<b>【世界の文化と食生活】</b> ●国際教育 ●日本の伝統・文化理解教育 ●メディアリテラシー教育 ●ICT教育 【説明】○国語「食文化」(1) ○社会「食生活の歴史」(2) ○音楽「地域の食文化を表現した我が国の音楽」(7) ○道徳「国際理解・国際観望」(1) <b>【選択】★総合「世界の食文化を調べよう」(10)</b>						

★上段には、【学校必修】として扱っている各教科等の内容例とその配当授業時数例を示しています。  
 ★下段には、【学校選択】として扱う総合的な学習の時間の単元名とその単元の配当授業時数を示しています。

### 4 単元の指導計画 (14時間扱い)

時間	主な学習活動・内容	育てたい資質・能力 ◇自主・自律 ◆人間関係 □社会参画 ★評価	指導上の留意点
1次 (3)	【日本と世界の国々の生活や文化を比べる】 ○A.L.Tや海外での生活経験がある教職員から外国の衣食住についての話を聞き、知らないことや調べたいことを考える。(1) ・主食の原料や調理方法の違いについて ・食事の準備・食器の扱い方について ・気候に応じた服装について ・住居の広さや設備について ○グループで調べたい国やテーマについて話し合い、調べる計画を立てる(2) ・食事・行事や風習 ・服装・住居 等	◇グローバル化に対応する力 ★世界の国々の生活や文化を理解し、日本との違いについて考え、我が国の生活や文化への関心を高めている。	・児童に自分の生活と比べられるように、外国の衣食住について紹介する。 ・テーマの設定は児童の興味・関心を基にするが、調べさせたいテーマがそうようにする。
2次 (6)	【世界の国々の生活や文化を調べる】 ○テーマに沿って世界の国々の生活や文化を調べる。(4) ・食事・行事や風習 ・服装・住居 等 ○収集した情報をグループで共有し、ガイドブック作りの計画を立てる。(2) ・国やテーマを決めた理由 ・調べた内容 ・自分が調べて分かったことや考えたこと	◆他者と協働する力 ★互いに協力して情報を集めたり、話し合ったりして、ガイドブック作りの計画を立てている。	・調べることを見出しを付けながらまとめるように助言する。
3次 (3)	【ガイドブックを作る】 ○外国へ旅行する人に、その国の生活や文化を紹介することを想定して、ガイドブックを作成する。(3) ・図や写真を入れて、視覚的にその国のよさを伝える。 ・見出しや割り付けを工夫する。 ・読む人が知りたい情報を入れる。等	◇問題発見・解決力 ★世界には様々な国や異なる生活や文化があることに気づき、それらを尊重しながらガイドブックをまとめている。	・ガイドブックの構想を十分に考えさせてから、作成するように助言する。
4次 (2)	【ガイドブックを交換し合い、自分の学習を振り返る】 ○お互いのガイドブックを交換し合い、分かったことを伝える。(1) ・土地の気候に適した服装をしている。 ・伝統的な行事を大切にしている。 ・住居にも工夫がある。 ○学習を振り返り、作文を書く。(1) ・実際に世界の国々を訪問して、生活や文化を体験したいと思った。 ・日本の生活や文化と似ている点、異なる点がよく分かった。 ・生活や文化を大切にしている人々の思いが分かり、自分も日本の伝統や文化を大切にしていきたい。	◇グローバル化に対応する力 ★ガイドブックを交換し合い、生活や文化への理解を深め、日本との違いについて考えることで、我が国の伝統や文化への関心を高めている。	・自分が調べた内容との共通点や相違点を発見しながらガイドブックの内容を伝えるように指示する。 ・外国の生活や文化を尊重する気持ちとともに、日本の伝統や文化にも関心がもてるように助言する。

★本単元で、児童・生徒に「育てたい資質・能力」の具体の評価規準を示しています。  
 ★本単元の「学習過程」を示しています。